

9月入学に関する意見

2020年5月13日
一般社団法人日本私立大学連盟

はじめに

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う学校の休業を契機とした9月入学への移行の提案は、初等中等教育をはじめ大学教育の現場に混乱を引き起こし、学校経営に重大な影響を与えるものと懸念する。また早急な移行は、逆に教育の不平等を助長し学生生徒の学力に格差を生じさせる恐れがある。

政府や国会等においては、学校休業によって、初等中等教育の現場で、子供の学習内容に学校差や地域差が生まれており、とくに来年大学入試を控えている高校生にとって、学習環境の差は学力差につながり、不公平であるから一律に9月に進級、入学に変更するべきだという議論がある。しかし、これは大学入試の時期や次年度の進級時期も先送りしない限り、解決にはならず、入口論だけで出口論のない場当たりの発想である。また、今般の感染症拡大による影響を受けている教育現場をどう救済するかという問題と、これまで幾度か高等教育改革の一環として検討されてきた秋入学問題は全く異質の話である。

9月入学の問題はこれまでも幾度か検討されてきた。しかし、1975（昭和50）年の帰国子女への対応を念頭に学年途中での卒業を認める学校教育法施行規則の改正、1987（昭和62）年の臨時教育審議会答申における秋学期入学制の提言によっても、秋入学への全面移行は実現しなかった。2012（平成24）年に東京大学が国際化を旗印に秋入学への全面移行を提言したが、高等学校側からは卒業から大学入学までのずれについて不安が示された。東京大学は、ギャップイヤー（ギャップターム）における留学、企業インターン、ボランティア活動などを提案したが、大学卒業までの修学期間の長期化、経済的負担による格差への懸念を消すことはできなかった。また、各種国家試験の実施時期、学制、会計年度の変更など、国による法令や制度の改正が必要であること、企業の採用活動時期の見直しなど、克服すべき課題が多岐にわたることが明らかになったにも関わらず、結局、政府も企業もこれに答えることはなく、大学発の秋入学移行は頓挫した経緯がある。

仮に今回の9月入学の議論が、大学も含めた大きな教育改革の観点からであると言うならば、このように大学改革の中で繰り返し検討されてきた秋入学問題の経緯を明確にしたうえで、実現できなかった原因について十分な検討を重ねる必要がある。9月入学への移行は、学生、大学への経済的支援、法令の改正や制度改革、企業の採用制度の変更など根本的な社会構造の変革と初等中等教育と高等教育を含む教育改革を一体として行うことが必要であり、実行に先立って、社会全体の合意を得るべく十分議論を尽くさなければならない。

日本の人材育成の将来像に関わる大問題を短期間の議論で実現しようとする発想はいかにも短絡的であり、非常時に名を借りた拙速な動きは厳に慎まなければならない。今は、目前で困難な状況にある日本の将来を担う若者の支援に国を挙げて力を尽くすべき時であると考える。

これらの考えを前提に9月入学に関する各課題を、以下の通り提示する。

1. 学修機会に関する課題

- 9月入学によって学修の機会が担保できるという考えは、9月には新型コロナウイルス感染拡大が収束することを前提としている。しかし、9月までに事態が収束していない場合には、オンライン授業の緊急導入や入試日程の変更によって、すでに混乱している教育現場をさらに混乱させることになり、結果的に、学生の経済的負担等を増大させるとともに、学修機会を不安定にする恐れが大きい。

- 出口の卒業時期を先送りすれば、当然、学費負担の増大、就職時期の遅延が生じる。高等教育の現場においては、休業要請を受けて、すでに春学期から新生、在学学生を問わず、オンライン授業の充実に膨大な人的・経済的資源を投入して高度な教育を守る努力を展開しており（この点は初等中等教育においても同様である）、今の時点で、入学時期や進級時期を9月にずらすことは無用の混乱を招くだけである。
- 仮に9月まで授業を行わない場合、小中高大学全ての私学は、その間の教職員の人件費など諸経費は発生するので、多くの私学が経営破綻してしまう可能性がある。とくに私立大学は大学生の8割を担っているため、高等教育機関に及ぼす影響は多大であり、経営破綻した私学に通っていた生徒・学生の学修機会をどのように保障するのか深刻な課題を抱える。

2. グローバル化に関する課題

- 世界においては、9月入学を標準とする国が約70%であり、9月入学が世界的に多数派であることは事実である。しかし、現在、日本への留学生が多い韓国は3月入学、これから留学生を増加させることが強く期待されているインドは6月入学、世界有数の留学生受け入れ国であるオーストラリアや、ニュージーランド、ブラジルは2月入学であり、9月入学に変更すれば、グローバル化が一様に推進されるわけではない。日本の大学が目指すべきグローバル化の方向性を慎重に分析し、その複雑な波及効果に関する議論を尽くした上で、その是非を決定すべき問題である。
- 年齢の観点から言えば、例えば、アメリカでは6歳の9月に小学校に入学する。その時点で、日本より半年早く学校教育を受け始めるわけだが、そのまま9月入学を導入すれば、当然、日本の大学教育の修了はアメリカより1年遅くなり、国際競争力が1年分少なくなる。今年度から準備もなく9月入学を導入すれば、この1年間の差は今後未来永劫取り戻すことはできない。
- すでに各大学は、春・秋入学併用の複線経路の入学・卒業形態、国際化に重点を置いた学部・大学院やコースの設置、セメスター制、4学期制の導入などによる留学や留学生受け入れ拡大など国際化に向けた多様な改革を進めている。入学時期の変更によって、グローバル化・留学生が増加するという根拠はなく混乱を招くだけであり、仮に文部科学省が、9月入学がグローバル化を進めるという主張を採用するのであれば、これまでの文科省の国際化政策の検証を併せて行うべきである。
- 「9月入学はグローバルスタンダードだから」と言うだけの理由では、真のグローバル化を推進するとは言えない。留学生の派遣に関しては、英語の能力が問題であり、初・中・高等教育における英語教育の一体的な改革を進め、大学教育へとつなぐことが喫緊の課題である。学生に、海外の高等教育に通用する英語力を身につけさせ留学させなれば、日本の高等教育は海外からの信頼を失ってしまうだろう。また同様に、留学生の受け入れに関しては、世界が日本の高等教育に失望することのないよう、各大学において高いレベルでの英語授業の体制を整備することが必要であり、学期の開始期を揃えることだけでは日本への留学生は増やせない。

3. 高大接続（入試）に関する課題

- 現在すでに進学・就職の準備を進めている受験生にとって、進学時期がいきなり9月になるとして混乱させることは、彼らの心理的負担をさらに増すことになる。更に、9月入学に伴い入試時期が後ろ倒しされた場合、とりわけ浪人生の経済的負担も大きくなる。また、今後、高等学校の再開が都道府県によって異なることが予想される中、高校3年生全体を一律に半年なかったことにすることで、早期に授業が再開された地方の高校生が犠牲になることを認識する必要がある。
- 先の見えない新型コロナウイルス感染を考えた場合、仮に9月入学として入試日程を遅らせても問題が解決されるわけではなく、新たな入試時期に再度感染が拡大することも考えられる。9月になっても1月以降の一般選抜の実施が困難な見込みであるということになった場合には、その影響を

最小限にするために、例えば、一般選抜の入試時期を全ての大学一律1か月程度遅らせ、入学時期も5月にずらすといった対応策も考えられる（1か月程度の遅延を事前に決定し、それに対応した学年暦を設計すること自体は柔軟な対応が可能である）。今、検討すべきは、どの時期までに何を定めるべきなのか、その実現のためにどのような費用や人的負担が必要なのかを検討することであり、既存の制度を全面的に変更する議論を今あえてすることで、現在対応すべきことが後回しになってしまうことは絶対に避けるべきである。

- 9月入学とした場合、入試時期は台風や熱中症など影響を受けやすい季節となる。また、令和3年度については、東京オリンピック・パラリンピックの開催時期と重なり、試験会場の確保が困難となるなどの問題がある。

4. 就職（企業）に関する課題

- 現在の大学4年生が来年秋に就職するのか、在学中である2021年4月に就職するのか、基本的な議論がなされておらず、社会的にも企業側とも調整が不十分である。
- 現在の高校3年生、大学4年生、修士2年生の中には、経済的に苦しくても学業を続けてきた学生生徒が多くおり、来年の4月から就職して早く給与を得たいと思っている者は多い。失われた5か月を取り戻すため半年卒業を後伸ばしするという議論の裏に、そのような若者らが多くいることを忘れてはならない。9月まで就職させないということを政府が決めるのであれば、彼らの給与保証を政府がすべきである。

5. 私立大学の経営に関する課題

- 本年度から入学時期を9月に変更するということは、本年度4月から8月までの期間、大学に休業要請をするに等しい。学納金収入に大きく依存する私立大学にとって、学納金が納付されない期間が半年に及ぶと、経営に深刻な支障をきたすことになり、結果的に、教育の質を保証することができなくなる。休業要請と休業補償は、表裏一体であるという昨今の議論に準ずるならば、9月入学の問題については学納金が納付されない期間に対する私立大学への国の支援を併せて検討するべきである。

以上